

上田市教育委員会4月定例会会議録

1 日 時

令和7年4月25日（金） 午後3時00分から午後4時20分まで

2 場 所

上田市役所 5階大会議室

3 出席者

○ 委 員

教 育 長	酒 井 秀 樹
教育長職務代理者	安 達 永 眞
委 員	大久保 恵子
委 員	木 口 博 文
委 員	萱 津 公 子

○ 説 明 員

池田教育次長、菊池教育参事、町田教育総務課長、宮原教育施設整備室長、渡辺学校教育課長、佐藤生涯学習・文化財課長、和根崎上田城跡整備担当政策幹、中沢人権同和教育政策幹、小須田学校保健給食課長、田中中央公民館長、木嶋西部公民館長、嶋田城南公民館長、間宮上野が丘公民館長、遠藤塩田公民館長、春原川西公民館長、池田第一学校給食センター所長、傳田第二学校給食センター所長、黒岩丸子学校給食センター所長、金田上田図書館長、中村情報ライブラリー館長、坂部上田市立博物館長、久保田丸子地域教育事務所長、宮島真田地域教育事務所長、小松武石地域教育事務所長、堀内交流文化芸術センター副館長、山寄上田市立美術館長

1 あいさつ

これより4月の教育委員会定例会を始める。

4月4日に入学式を迎えた。11名の校長先生13名の教頭先生を新たにお迎えして令和7年度がスタートした。委員の皆様、職員の皆様には、入学式の式辞のお手伝いをいただき本当にありがとうございました。お伺いした小学校の中で1年生を迎えたお子さんが、30分から40分ぐらいの式の間視線を崩さずにじっと前を見ている姿を見て、目頭が熱くなってくる思いがした。

その後いろんな学校のホームページで校長先生の「これから1年間頑張っていこう」という言葉を読むにつけ、お手元の通信に書かせていただいたが、高浜虚子の「春風や闘志抱きて丘に立つ」という言葉を思い浮かべてみた。高浜虚子が正岡子規と一緒に新しい俳句の世界を築こうとするが、その後正岡子規が亡くなり、しばらく俳句から遠ざかっている間に、同じ子規の弟子の河東碧梧桐という人が、自由な定型を無視した俳句運動をし始めて、そこにもう1回「自分達を作ろうとしていた俳句は違う」というような思いで俳句の世界に戻ってくる、そのときに詠んだ句だと言われている。あまり強い決意でこれからこれをやるぞということと言わないが、内の中に燃える何かを抱えながら丘の上に立っている、そんな姿が一年生の凜とする姿であったり、校長先生の言葉から感じられた。

私達もぜひ今年1年、様々な立場から先生や子ども達の歩みを支えていく1年になればいいなと考えている。ぜひお力をお貸してください。

先日、全国学力学習状況調査が行われ、今年から初めて理科のテストでCBTと言われる紙を使わない1台端末上の試験が導入された。今後どう動いていくのか興味を持っていかなければならないと思っている。

2 新任事務局職員紹介

池田教育次長より、4月の人事異動に伴い、教育委員会事務局に配属になった職員を紹介。

3 協議事項

(1)「上田市オープンドアスクール設置検討会議」の委員構成等について（学校教育課）

○資料1により渡辺学校教育課長説明

上田市オープンドアスクールの設置検討のために設置する有識者による検討会議の委員構成を次の通り決定したいというものである。

構成について御説明する。

まず、団体推薦ということで、長野大学から教育に関する有識者ということで早坂淳先生をお願いしたい。続いて、おけまーるジュニアセンター・上田子どもシネマクラブの方々については不登校支援という位置付での選出で小林みゆきさん、直井恵さんをお願いしたい。上田市多文化共生推進協会・MANABI外語学院の安藤健二さん、畑田高志さんについては、外国籍の方の支援ということでお願いしたい。

続いて、侍学園スクオーラ・今人、若者サポートステーションシナノの長岡秀貴さん、藤井雄一郎さんについては、若者の生活支援や就労支援ということでお願いしたい。

続いて、上田市校長会から加藤浩校長先生、綿貫泰正教員。加藤先生については上田市校長会の校長先生の枠でお願いしている。綿貫先生については、現在、第六中学校で校内フリースクールの担当で、様々なお子さんの悩みに寄り添っていただいているということでお願いしている。

続いて個人依頼であるが、荒井英治郎委員は、信州大学にお勤めで、昨年度、長野県が実施したオープンドアスクール創造会議で座長を務められた方である。矢島圭子さんについては、現在、県や市のスクールソーシャルワーカーとしてお勤めで児童生徒、家族の支援をしていただいております、より近い立ち位置でお仕事されているということでお願いしている。以上11名の方に委員としてお願いしたいというものである。

また、会議については、オブザーバーとして県教育委員会からオープンドアスクールの考え方として、夜間中学・学びの多様化学校それぞれの機能をひとつにまとめられる学校というようなことも基本的な考え方になっているので、県の所管する義務教育課とこころの支援課にオブザーバーとして参加していただきたいと考えている。

この委員の構成で、今年度、早速4月から会議を進めたいと考えている。

続いて、2番の会議日程については、まず、第1回目は、令和7年4月30日(水)の午後3時からひとまちげんき・健康プラザうえだで行うことを予定している。

以降、計画している会議の日程は、5月26日、6月27日、7月23日である。

大久保委員

こちらのメンバーの方に相違はない。不登校支援や外国籍の方々の学び、子ども達の自立支援など上田市が抱えているその教育の問題に対して深く関わっていただいている方々の人選だと思っている。検討会議のスケジュールがタイトかもしれないが、ぜひ子ども達が行ってみたいと思えるような楽しい学校づくりを進めていただきたい。

安達教育長職務代理

困難を抱えていると言えそうなるが、じっくり向き合っておられる方々に委員になってもらえるのはとてもいいと思っている。そして困難にじっくり向き合えば向き合うほど、学ぶことの楽しさや大切さ、本質というものが見えてくると思う。

それを検討していただけるということで、今ある学校についても大きな見直しの観点になるような気がするので、ぜひ、前向きに検討していただきたい。

木口委員

私も今回の委員の構成を見て非常に今後のオープンスクールがいい方向に進むのではないかなと感じている。常識みたいなものにとらわれないところからいろいろ話を進めていながら、全国から「いい学校ができたね」と認めてもらえるような、そんな学校ができていくことを期待している。

萱津委員

私もメンバーの方々に異論はない。本当に必要な団体から必要な方達を招集してくださっていると思っている。いわゆる従来の学校らしい学校ではなくて、子ども達が行きやすい、行ってみたいと思う新しい学校をぜひ考えていただきたい。

また、県のオープンドアスクールの創造会議の座長をやっている先生もいるので、ぜひ、県の意向と上田市の特徴的に出したいところのすり合わせをしっかりといただき、上田市でこの学校をつくる意味を理解していただけるような検討をしていただきたい。

また、4月からスタートして3月末で一律に終了するのではなく、留学する子ども達は9月で卒業という方法もある。様々な仕組みの部分でも既存のものではない方法も考えていただけたらと思う。

酒井教育長

続けて御意見あるか。よろしいか。

○全員了承

(2) 上田市図書館協議会委員の委嘱について（上田図書館）

○資料2により金田上田図書館長説明

上田市図書館協議会委員の委嘱について承認をいただきたく、御協議をお願いしたい。図書館協議会というのは、館長の諮問に対して図書館の運営に関して意見を述べるというものであるが、定員が8名以内ということで、資料の名簿の通り選任した。8名のうち3名が団体推薦、4名が個人依頼、1名が公募である。

右端に期数を記載してある。上の5名については前期からの継続で下の3名が今期改めて依頼する委員である。

下から3番目の西山拓郎さんが御住所は東御市であるが、上田市を拠点にしているバリエーションに勤務されており、長野県図書館協議会の委員を今回で4期務めていらっしゃる方で、図書館について幅広い知識をお持ちということで様々な御意見を聞けるものと考えている。

次の丸山文隆さんであるが、長野大学の准教授をされている方で、昨年からは長野大学の方で教鞭をとっている。それ以前は関東の方で研究者という立場で様々な学習活動をされており、図書館にも興味をお持ちで、また、大学にいらっしゃるので大学生に近い位置で大学生からの意見なども拾っていただけるものと期待をしている。

最後が北沢秀雄さんであるが、今回公募に対して応募してきた方で上田市教育委員を令和5年4月までお勤めされていた方である。幅広く上田市の教育行政に見識を持ちであるので幅広く御意見をいただけるものとして選任をしている。以上8名について、協議会委員の委嘱について御承認をいただきたくお願いいたします。

木口委員

今回、公募で応募された方は何名いたのか。

金田上田図書館長

公募は1名である。その後、面談をして選定した。

大久保委員

図書館の運営に関して協議会を開催するということであるが、年何回で、各会議でテーマみたいなものは決まっているのか。

金田上田図書館長

例年、年度内に2回で、年度当初に前年の活動結果報告と今年度の計画について御説明

し、年度末に年度内に行った重点目標などの説明などをしていた。今年度は、上田市の図書館の第3次図書館基本計画を策定する年度なので、4回の開催を予定している。

酒井教育長

続いて御意見あるか。それでは、以上の皆様を委嘱するということではよろしいか。

○全員了承

4 報告事項

(1) 令和7年度サントミュージゼ事業の主催者名義使用及び事業計画について

(交流文化芸術センター・上田市立美術館)

○資料3により堀内交流文化芸術センター副館長・山寄上田市立美術館長説明

堀内交流文化芸術センター副館長

サントミュージゼの自主事業については、施設運営の基本的な理念である育成に基づき、主催を上田市及び上田市教育委員会として、これまでも連名で表記して実施してきているので引き続き御了承いただきたい。

続いて、(1)上田市交流文化芸術センター事業については、別紙1の資料とリーフレットの通り計画している。その中でも特に教育委員会や学校に関係する事業を中心に説明させていただく。

「2 上田市交流文化芸術センターと教育委員会の連携」についてであるが、(1)芸術家ふれあい事業「クラスコンサート」である。市内全小学校5年生を対象として、音楽室等で行うプロの演奏家による体験型のコンサートである。普段、身近に接する機会の少ない国内の第一線で活躍するプロのアーティストの演奏に、間近に触れることにより、感性や想像力を育むことに繋がればという思いで、これまで11年間継続して実施しており、今年度も引き続き実施していく。

続いて、(2)芸術家ふれあい事業「地域ふれあいコンサート」である。市内公民館などで気軽にクラシック音楽に触れる機会を提供するもので、主に地域住民の皆さんを対象に実施する。

続いて、(3)劇団四季「こころの劇場」であるが、こちらは劇団四季による日本全国の子ども達に演劇の感動を届けるプロジェクトであり、対象は小学校6年生で、今年度は10月10日金曜日に2回の公演を予定している。なお、作品は調整中である。以上。

山崎上田市立美術館長

資料3上田市立美術館の事業について御説明する。

公立博物館である美術館は、これまでと同様に育成を理念に教育および学術の発展に資するとともに、魅力ある質の高い鑑賞事業や想像力、発想力・感性を育む学びの場を提供する教育普及事業を進めることにより、人、文化、街を育み、地域の文化振興に寄与するよう引き続き努めていく。

実施する事業については、(1)から(4)の通りである。別紙2の事業計画に詳しい内容を記載してあるので、そちらを御覧いただきたい。今年度の特徴として、年度の後半に自主事業を開催する展覧会を計画している。

2の鑑賞事業、(1)主催企画展を御覧いただきたい。㊦とついているのが、他の所属や外部団体等との連携事業である。

最初の川瀬巴水～旅と郷愁の風景～は、資料にあるように、季節や天候、時の移ろいを豊かに表現した、川瀬巴水の初期から晩年までの代表的な作品約180点をその生涯とともに紹介する。山本鼎の提唱した、自分で描いて自分で掘って自分で刷るという創作版画と対極に位置する新版画を代表する作家で、江戸時代からの浮世絵の流れを汲み、版元が作家に依頼して元となる作品を描いてもらい、掘る、刷るという作業を分業で製作する過程を経て完成するのが新版画である。多色刷りの色重ねによる表現を熟知した秀逸な作品を御覧いただくことができ、創作版画との違いを感じられる展覧会となるのではないかと考えている。

次の第50回全国大学版画展は連携事業で、全国の美術系の大学のとの連携になる。上田での開催は今年が5回目となり第50回という節目に当たる。各大学から選抜された若いアーティスト達の清新な作品を展示する。

次の「クレパス誕生100年 クレパス画名作展」は、大正14年に誕生したクレパスの開発に携わった山本鼎と現株式会社サクラクレパスの御縁から開催する運びとなったものである。

本展では、サクラクレパスの運営する「サクラアートミュージアム」のコレクションをお借りし、クレパスの歴史を御紹介しつつ、山本鼎を初め、梅原龍三郎、猪熊弦一郎健一郎、小磯良平、岡本太郎など、大正昭和の時代に日本の美術画壇の中枢で活躍した、近代巨匠たちの作品の他、船越桂、鴻池朋子、加藤ゆわ、絹谷香菜子など現在活躍中の作家が描いたクレパス作品も展示する。

鑑賞事業を行うものは以上である。

教育普及事業については、2ページ以降であるが、今年度と同様の事業を継続して行っていく。

お手元に展覧会の年間スケジュール、子どもアトリエの上半期のパンフレットを添付しておりますのでお時間があります時にぜひ御覧いただきたい。

令和7年度も以上の計画で事業を進めてまいりますので委員の皆様にも引き続きサントミューゼの事業に御支援、御協力を賜りますようよろしくお願いします。

木口委員

サントミューゼの説明のところで、教育委員会の方に主催事業として了承いただきたいという話であったので、了承ということであれば、報告事項ではなく、協議事項にしていた方がよいと思うがいかがか。

もうひとつ、美術館の連携事業で、全国大学版画展が50回目ということで、今回、上田市での開催は5回目ということだが、上田市でこれだけ多く開催されているのは理由があるのか教えていただきたい。

山寄美術館長

全国大学版画展が上田で多く開催されている理由だが、これは長年、東京にある町田市の国際版画美術館というところで開催されていたのだが、この美術館が改修ということになり、その間、山本鼎と縁が深い版画ということで、上田市で開催してもらえないかということで事務局である大学の先生方から依頼があり、上田市で開催している。

酒井教育長

よろしいか。

先ほど、木口委員から御指摘のあった協議事項とすべきではないかという点であるが、以前まで、市立美術館は教育委員会で補助執行となっていたため、教育委員会と一緒にやっているというベースがあり、報告事項にありながら、了承いただきたいというようなことになってしまった。改めて、報告事項の場ではあるが、協議事項ということで、御承認いただけるということでよろしいか。申し訳ない。

○全員了承

酒井教育長

ありがとうございます。

その他、御意見、御質問等あるか。

大久保委員

サントミュージゼの資料で地元の子ども達を集めて演劇を鑑賞したり、学校にアーティストの方が出向いてコンサートをしたり、芸術文化に子ども達が関わる事業をたくさんしていただいている本当にありがたい。

そのほか、サントミュージゼでいろいろ体験したり、芸術鑑賞したりというような地域密着型の授業はたくさんあるが、一市民としてのお願いでもあるが、例えば、年に1回ぐらいは、ビッグアーティストの方が来て、県内外から人が集まるとか、そういったイベントも時々開催していただきたい。

堀内交流文化芸術センター副館長

希少な御意見ありがとうございます。事業の組み立てについては、元々の計画もある中ではあるが、非常に貴重な御意見をいただいたので、今後の事業計画に反映できるよう検討したい。

萱津委員

サントミュージゼと教育委員会の連携で、芸術に触れる子ども達が増えるということは、すごく素敵だと思う。個人的な希望だが、科学分野のサイエンスショーみたいな事業が欲しいと思った。

小さい子ども達を連れて行くときに、理科室じゃできない実験ではなくて、こういうこともできるよというものがあると、科学や理科に関心を持つ子ども達が増えるのではないかなと思った。検討いただけるか。

堀内交流文化芸術センター副館長

サントミュージゼ主催事業ではないが、いわゆる貸し館事業の中には、でんじろう先生とか美術館の方で、すこしズレるかもしれないが、魔法の美術館のような視覚的な効果を狙ったデジタルアート展だとか、そういったものは貸し館事業としてある。

ただ、これを主催事業でやるとなるといろいろプロモーターですとか諸々調整があるため、すぐというわけにはいかないが、貴重な御意見として検討させていただきたい。

安達委員

美術館も芸術館もいろいろと計画していただきありがたい。

美術館の事業について、2行目に書いてある「文化、まちを育み、地域の文化振興に寄与する」ということは本当に大事なことだと思う。

サントミュージゼの場所に、例えば、車から降りてもいいし、歩いてもいいが、そうした時に何かちょっと文化の香りがするとか、そこに行ってみたくなる、そこへ行けば、何か作品が見られたり、音楽を聴くことができたり、あるいはそれらに関するポスターがたくさん貼ってあったり、あそこへ行くと文化に触れることができる、そういう場所にどんどんなっていけばいいと思う。そんな意味でこのような事業をたくさんやっていただいていると思うが、これは今日明日でできることではなく、粘り強く今後もやっていただき、文化を求めて子ども達が集まる場所にして欲しい。高校生があそこで勉強しているのも私はいいと思っている。人が集まって、そこからなにかが生まれる、そんな場所になっていくといいと思う。

すぐ上には上田市の文化の中心でもある城もあり、そんなふうになっていくことを期待している。

1回やった事業のお客さんが少なかったからやらないというのではなく、5年、10年と続けてやっていって欲しいと思う。

堀内交流文化芸術センター副館長

とにかくホールを立ち上げた時に一般的に言われるのは、最初の10年は子どもで言えばまだよちよち歩き、10年経ってようやく歩き始めるというところで、これまでも皆様の御理解をいただきながら事業を様々展開してきた。

今、御意見いただいたように、確かに集客が望めないような事業も確かにあったが、それに限らずこれからも引き続き、やはり文化の振興ということもあるので、ぜひ継続して取り組みを進めていきたいと思うので引き続き御理解、御協力をよろしくお願いした。

酒井教育長

そのほか、なにかあるか。

それではこれで堀内交流文化芸術センター副館長と山寄美術館長は退席となる。

(2) 上田城跡発掘調査の進ちょく状況について(生涯学習文化財課)

○資料4により和根崎上田城跡整備担当政策幹説明

これまでも調査の進捗状況については、御報告させていただいていたが、年度当初ということで、今年度7年調査予定等について報告したい。

まず、今年度の発掘調査予定地については、城内3ヶ所を計画している。

ひとつ目は、本丸の西虎口である。こちらは。西櫓のちょうど北側にあるが、既に石垣とその上にあった櫓、それから石垣の間にあった櫓門が失われている場所になるが、7つ櫓の

復元ということでこれまで取り組んできている状況の中で、真田神社の土蔵が近年まであったところだが、その土蔵の下についてはこれまで発掘調査をしていないということで、石垣のまだ見つかっていない続きが存在する可能性があるということで発掘調査をして復元のためのデータを得るということで実施をしたいと思う。地図の方では赤く囲んだうちの①となる場所なので御参照いただきたい。

次に、2番目のテニスコート跡地については、7月から解体予定の旧市民会館の重機の搬入経路、それから瓦礫等の搬出経路ということで、テニスコートの中を通行することとなる。テニスコートについては、昨年12月をもって廃止ということで、こちらについては各調査をした上で通路とする計画でいる。そのほかの通路についても車が通っても発掘等に影響のないところを選定をしながら史跡の保存を大前提として、進めていきたいと考えている。

次に、3番目の三十間堀跡平面調査だが、市民会館の解体工事と並行して進めたいと考えている。市民会館の解体工事については、3メートルの高さのあるフェンスで工事箇所を囲んで行うが、今回の三十間堀の発掘調査については、このフェンスに囲まれた中で発掘調査をしたいと考えている。

これまで、委員の皆様方にも御意見をいただき、なるべく市民の皆さんに発掘現場を御覧いただくというスタンスでやってきたが、今回の場合、三十間堀、深さが記録によると、5メートル近くあるということで、今回は公開をしながらの調査というのは大変危険を伴うということもあるため行わず、現地説明会等で市民の皆さんには情報発信していきたいと思う。

今後の整備事業のスケジュールだが、先ほども触れたが、この7月から市民会館の解体工事に着手をする計画である。

そのため、先ほど申し上げた発掘調査を済ませた後、取り付け道路というか排出のための通路を設置して、概ねこの秋から1年、令和8年の秋になるかと思うが、解体工事を実施した後、令和10年度を目標に武者だまりの整備工事が完成すると考えている。

発掘調査については、今回の(3)の三十間堀跡平面調査というところで、武者だまりの調査については一応の目途というか終了ということで考えているが、市民会館の南側の崖側については、これまで一度も発掘調査をした経過がない。大きな建物がある中での発掘調査は非常に危険を伴うということで、解体が終わった後、いずれかのタイミングで発掘調査をする予定である。具体的にどのタイミングで入るかというのは今後の工事の進捗状況に合わせてとなるが、いずれにしても改めて皆様には御報告する予定である。

安達職務代理者

スケジュールについてだが、市民会館が使われなくなっからずいぶん日が経つと思う。

だから私達、周りの者からすると、これからどうなっていくのかなどいろいろな期待感がある。そこをズルズルとあまりにも長いとその期待感も、「まあ、いずれなんとかなるんじゃない」というように変わっていつてしまうのではないかと思う。このスケジュールを見た時に、市民会館の解体が7年の秋、次に武者だまりの工事が10年、その間に1年はある。そうすると、その辺、先ほど出ていた学校のスケジュールと違ってタイトでないスケジュールで動いていくので、逆に何か見通しというか、期待している人に、この時にこんなものができるんだよと言えるように何かアピールして欲しいと思う。

和根崎上田城跡整備担当政策幹

私どもとしては、仙石忠正氏が、城を復興したのが1626年、それから、仙石氏の復興が完了したのが1628年だったので、ちょうどそれぞれ400周年を目途に、この整備事業を合わせて盛り上げていきたいと考えている。これまでも櫓復元推進室等と連携して、秋の紅葉まつり等で著名な先生方を呼んだシンポジウムを開催するなどの取組の中で、今、安達委員から御指摘をいただいたように間延びしてしまうようなところはケアというか、発掘調査これから市民会館も具体的な工事になっていくわけだが、できる限り目に見えるような形の中で、この事業を進められるように教育委員会を中心にほかの部署とも連携しながら進めていきたいと考えている。

大久保委員

説明の中でいろいろあったが、やはり定期的なというか何かあったときにはすぐこういうことがあったとか、なぜ市民会館の解体工事が来年になるのか、会館を閉じてからなぜ何年もそのままで今までかかったのかというようなところをやはり折に触れて、さまざまな形で説明していくことが大事なんじゃないかと思う。

例えば、今年もそういった発掘調査の中で冠塀台石垣が残存していたのかどうかなど、面倒かもしれないが逐一報告したり、そういったことで市民の皆さんの協力や賛同が得られて発掘調査の大きな力になると思う。皆楽しみにもしていると思うので、大変かもしれないが、逐次ご報告いただければいいと思う。

和根崎上田城跡整備担当政策幹

市民会館の解体が遅れたということに関しては、いろんな条件の中で進めてきた中で本当に申し訳ないというのが正直なところ。昨年度、教育委員会の仕事として、この市民会館の解体前に記録保存をするということで報告書を作らせていただいた。

今年度、国の補助金で、庁内の上田城関係各課、城跡公園の整備に関連した部署以外の

観光課等も含め、担当ごとにバラバラで情報を発信しているところをひとつにまとめていくということなので今取り組んでいる。

春先にいろいろな調査をしたが、前にも紹介したが、上田城復元プロジェクトというXのアカウントの方で、リアルタイムにというのはなかなか難しいが、1週間ぐらいの間にその成果については逐一情報発信をするよう取り組んできた。

以前から大久保委員には特にこういった点について御指導いただいているが、お陰様で職員はそういったことに常に気を配れるような雰囲気になってきて、教育委員会と市長部局という垣根のあるような中で今まで仕事をしてきたところはあるが、そんなところもずいぶん改善されていい雰囲気で整備に向かって市内一丸となって進んでいるように思える。

(3) 「自然科学講演会 Part3～上田はかつて海だった～」実施報告について

(生涯学習文化財課)

○資料5により佐藤生涯学習・文化財課長説明

この鯨の化石については、令和元年に発見されてから5年が経過する中で、この間、クリーニング作業や調査も進んだことから、市民の皆さんの関心をより高めるとともにクジラの化石研究の講演を通じて、自然科学の学びを深めていただくため、昨年に引き続き、調査の中間報告を踏まえた講演会を開催した。

概要については、資料に記載されているが、3月22日土曜日、市役所5階の大会議室で作業や調査の中間報告、講演会を行った。

参加者は、73名。前回は70名ほど。今回の参加者のうち、小学生から高校生までの学生は4名おり、幅広い年齢層に参加いただけたと思う。

参加者の感想としては、「大変満足」「満足」の方が大半以上ということで大変好評だったと考えられる。具体的な意見は資料の裏面に示してあるので説明は省略するが、皆さん、大変関心が高いと感じる。

また、自然科学の学びの楽しさなどの感想もあり、これは前回同様、今回の内容も高い評価をいただいたと思う。

このようなことから、市民の皆さんの関心を高めるという初期の目的は達成できたと感じているが、これに留まることなく、今後もさらに多くの方にクジラの化石について知っていただき、関心を持っていただかなければならないと考えている。

今後は、クリーニング作業はまだ時間を要するということであるが、展示できるまでの間、引き続き、写真などを市民の皆さんへ情報提供するなどし、それを基に、子ども達の学習に公民館や学校と連携して取り組むなど、機会の充実等を図っていくことを考えている。

また、地域資源として、皆さん本当に関心があることから、住民組織の方々との連携など地域まちづくりの観点なども模索していきたいと考えている。

安達職務代理者

やはり、単位の違う、100万年単位の歴史がこうやって目の前で学べるのはすごいなということを感じる。ありがたい企画だと思う。

イルカの化石もあるが、あれもなかなか見られないが、この鯨の化石はゆくゆくはどこかへ展示されるのか。例えば、ここで話をされた内容なども一緒に提示されるということはあるのか。

佐藤生涯学習・文化財課長

現在のところ、具体的にどこに展示するかなどは決まっていないが、構想としては、博物館や美術館があるので、今後どうなるかというようなことも絡めて、どう化石を生かしていくかということは当然議論になると思う。

それには、まず、一番は今回のように市民の皆様に知っていただくということで関心を高めていくことが近道だと考えている。現在はそのような状況である。

木口委員

私も鯨の化石、すごく興味がある。クリーニング作業は中間報告ということだが、これは、専門的な業者などに委託してやってもらっているのか。

佐藤生涯学習・文化財課長

今回は、この化石を発見した鈴木先生自らの手で、場所はこちらで提供しているが、そこで先生がやっていたいているというのが現状であるので、少し時間はかかると思う。

酒井教育長

そのほかよろしいか。

報告事項について、事務局からの説明は以上となる。

(4)から(10)までについては説明はないが、委員の皆様から御意見、御質問等あるか。

安達職務代理者

資料8の「出前ときめきのまち講座」、これは大変ありがたいのだが、コマーシャルなどはどうしているのか。このようなチラシなどはどこかに置いてあるのか。地域に回覧され

ているとか、自治会や公民館などにあって誰でも使えるようになっているのか。

佐藤生涯学習・文化財課長

周知方法だが、当然ホームページの方には記載されており、このチラシについては公民館などに置いている。

大久保委員

去年も言ったかもしれないが、講座名と内容が全く同じものがある。見た方がこれで興味を持って申し込むので、できればもう少しキャッチーな講座名やそれについての説明を、少し細かいことかもしれないが、検討して欲しいと思う。

佐藤生涯学習・文化財課長

申し訳ありません。再度、御意見いただいたので、お時間いただいて検討したい。

木口委員

私も出前講座についてだが、これらの講座の内容は、完全に固定されているものなのか。それとも、ある程度こちらからの依頼などでアレンジをしてもらったりするものなのか。例えば、参加される方の年齢だとか、そういうのに合わせて内容をこうして欲しい、例えば、スマホの講座であれば、子ども向けにして欲しい、お年寄り向けに話をして欲しいだとか、内容を対象者等によってアレンジしていただくことは可能なのか。

佐藤生涯学習・文化財課長

実際、申し込みを受ける時は、講座名で受けるが、担当課で内容の定型はあるが、そういう事情をお伺いするパターンもある。その中で、相手方が望んでいることも取り入れながら、時間に限りはあるが、柔軟に対応している。

萱津委員

資料6「登録有形文化財の登録（見込み）について」のところで、知識不足で申し訳ないが、登録された場合の文化財というのは、上田市の財政的な支援などがあるのか。

佐藤生涯学習・文化財課長

詳細について資料がなくて申し訳ないが、バックアップする体制はある。

萱津委員

せっかく登録されたので、所有者個人での維持管理はとても大変なことだと思うので、ぜひ、こういうところが登録有形文化財に登録されたというのをホームページでも広報していただき、どのような特徴があるのかということも周知して、市民が見に行ってみようと思うような支援をしていただきたい。財政的な部分だけではなくて、上田市の文化財に興味を持つ方がいると思うので、その辺もお願いしたい。

佐藤生涯学習・文化財課長

上田市の文化財は、全体で350ほどあるので、上田市は文化財が多い地域であるということ、そのような所に住んでいるんだと市民の方に自覚していただくためにも御意見いただいたように積極的に周知をしていきたいと思う。

大久保委員

資料9「地域とともにある学校づくり 学校支援だより」だが、今ボランティアに参加している方々の情報交換、情報共有にもなり、役立てていただければ本当にいいと思うが、これからボランティア活動、学校支援ボランティアなどそういったものに興味がある方がどんなものか知るような内容も増やす方法で作成して欲しい。そしてもっと学校に関る地域ボランティアの方が増えてくれればいいと思う。

佐藤生涯学習・文化財課長

この活動を皆さんに知っていただくことは、運営していく上で非常に大事な視点である。

近々、広報でも特集を組んで、周知するので、その中で広く皆さんに周知したいと思う。

このボランティア活動については、やはり安全上の問題もあるので、保険等のバックアップも引き続きしたいと思う。

酒井教育長

各学校で新たにコミュニティルームができていて、特に小学校に多くあるので、ぜひ活性化していくようにと思う。

安達職務代理者

資料10「スマホ・ネットをかしこく安全に使うために」について、「小中学生の皆さんと保護者の皆さんへ」と資料にあります。これは市内の全小中学生に配られていると考えていいか。

佐藤生涯学習・文化財課長

はい。この4月末から5月の中旬にかけて、市内の全小・中学校へ配布する予定。

安達職務代理者

そうすると、この資料を見た時に、小中学生の皆さん、読まなきゃいけない人、保護者もそうだが、ただ配るだけだと素通りしちゃうのではないかと思う。ワンクッション置いてというか、教室で扱うなり、何かメディアのところで少し扱うようにしていかないと素通りしてしまって、そのままリサイクルに回るような気がする。

今、現実には、スマホやネットでかなり厳しいことが起きているので、何かひとつでも、授業で扱えるといいかなと思う。完全に干渉はできないが、そんなことを思った。

佐藤生涯学習・文化財課長

去年も定例会で少しわかりづらいということで、今回は、子ども達が見やすいように作成した。このほかに、先ほどの出前講座にも講座があるので、そのようなことも広報して活用してもらえればと考えている。

酒井教育長

校長会でも活用を考えたいと思う。

大久保委員

私もこのスマホの件について、この資料は、お子様向けというところもあってやさしい内容になっているという印象だが、全体を通しての一番強い主張が「約束をしましょう」ということかと思うが、アンケートでは、ほとんどの人が親と約束をして、その約束が守られている。なので、なぜ約束をしなきゃいけないのか、先ほど安達委員からも話があったように、今、厳しい状況が起きているからこそ、何かあった時に大人がどう守るとか、そういったことが伝わるようにしていった方がいいと思う。

こちらは子ども向けで子どもが見ることなので、これはこれでいいと思うが、例えば、保護者の方には、子供たちにとってこういう悪影響があるとか、お家でももう少しお子さんとスマホやタブレットの使い方について話し合っていきたい、ということなど、そういった思いが伝わるものを出していただくといいと思う。

佐藤生涯学習・文化財課長

コンピュータの世界は非常に速い速度で進んでいて、なかなか追いつけない状況もある

が、やはり時代の中で子ども達が一番接する話なので、それを整備できる可能性があるのは学校であったり、親御さんだったりするので、今の御意見を参考に検討したい。

酒井教育長

そのほかあるか。

私の方からひとつお願いします。

冒頭にも御紹介させていただいたが、大久保委員が、この4月28日に任期が満了となり、本日が最後の定例教育委員会となる。

大久保委員におかれては、令和3年4月29日から4年間、上田市の教育委員としての務めをいただいた。

就任の時は、ちょうど学校における新型コロナの対応で大変心をいただいた。

また、定例会や学校訪問、研修会の際は、大変貴重な意見をたくさんいただき、教育行政を盛り上げていただいた。

それでは、大久保委員からひと言、御挨拶をお願いしたい。

大久保委員

4年前、娘が小学校6年生の時に教育委員になり、今年の3月に中学校、義務教育を終えて今年から高校生になった。

4年間、教育委員として携わせてもらった。本当に何をやるのかもわからないまま教育委員になって、まず、最初に、先ほど教育長からもあったとおり、コロナ禍真っ只中での就任という形になり、娘や娘のお友達から「コロナを何とかしてください」といった要望をいただいて、すごく困った覚えがある。

それから4年間、本当に今はもう、卒業式だとか入学式だとか、運動会もほぼ元の形に学校行事は戻りつつあって、本当に最初の1年は心が痛むことばかりだったが、今は通常に戻ってきたなと感じる。

先ほど、協議会でも言ったが、すごく長く感じた4年間ではあったが、決してそれは嫌々やっていた4年間ではなく、本当にいろいろなことを楽しくやらせていただいた。学校訪問も定例会で皆さんのお話を聞かせていただくのも本当に上田市の皆さんが、職員の皆さんが、こんなに頑張って教育行政に携わっているという事が、毎回、毎回、伝わってきて、本当に充実した4年間だったと思う。

ふたつ、私から要望というか意見がある

ひとつは、折に触れて私は言って、多分皆さんにちょっと変な顔をされているが、学校に和式トイレをひとつは残していただきたい、ということ。

なぜかと言うと、股関節の柔軟性を保つというところでしゃがむという動作はすごく大事になる。今は、本当に各家庭で洋式化していて、私以上の歳の女性などは7割ぐらい、膝に痛みを抱えているという状態で、男性の方でもあぐらがかけないない男性が股関節が痛いと言っているが、これはしゃがまないことによる弊害である。

とはいえ、現在の日本の住宅に和式トイレを残しておくというのはひとつの家で大体トイレは1個なので、そうなるとうとう洋式になってしまうので、なかなか難しい。そういったことで、学校や公共の場でひとつは和式トイレを残していただきたい。和式トイレというのは日本の文化のひとつだと思う。それがもう全くなってしまうのは、股関節の柔軟性を保つという点もそうだが、その文化を残すという点でも寂しいなと思っている。

もうひとつは、皆さんが教育行政に本当に真摯に携わっている、そういったことが市民の皆さんに、もっと直接、はっきりわかりやすい形で伝わって欲しいということ。

先ほど、上田城跡の復興についても申し上げたが、やはり、日々の業務が忙しい中で報告や広報、周知ということは、割と後回しになりがちである。だが、そういったことを密にやることによって、市民の皆さんの理解が得られ、応援もしていただけると思う。ぜひ、少し時間を割いて、周知や広報などで、自分たちがどんな思いを持って携わっているのかということを市民の皆さんに伝えながら進めて欲しい。伝え方はいろいろあると思う。「広報うえだ」に載せるのもいいし、ほかにXなどのSNSで伝えるのもいい。折りに触れてあらゆる形で、どういう形であれば伝わるのか、というところを常に考えていただきたいと思う。

簡単な分かりやすい方法としては、数字で見せる、ということもあると思う。この前、予算で出たように今年の上田市の教育費が全体予算の8%であるということ。この8%は少ないのか、多いのか？ その数字がもし2桁だったとすれば、結構、教育にお金をかけているなど皆すぐに理解すると思う。

伝え方というのもたくさんあると思うので、その中で1番たくさんの人に伝わる方法というのをいつも考えていただきたいと思う。

これからも皆さんの事を応援しています。上田市の教育行政をどうぞよろしくお願いします。大変、お世話になりました。

酒井教育長

ありがとうございました。

大久保委員のますますのご活躍を心からお祈り申し上げ、4月の定例会を終了とする。